

研究者の横顔			
フリガナ	オオキ リエコ		
お名前	大木 理恵子	助成金額	100 万円
ご所属	国立がん研究センター研究所・基礎腫瘍学ユニット		
研究テーマ	YAP依存性がんを標的としたReprimoベース細胞外スイッチ型アポトーシス誘導治療法の開発		
1：研究者になろうとしたきっかけ			
<p>小学生の頃、顕微鏡で細胞を観察したことをきっかけに、生命が細胞の集合体として成り立つ仕組みに強い興味を抱きました。その後、大学時代に分子生物学の教科書と出会い、細胞内の現象が分子レベルで論理的に説明できることに深く感動しました。「細胞を本質的に理解したい」と考え、大学院で分子生物学を学ぶ道を選びました。その過程で、異常な細胞であるがん細胞の研究こそが細胞理解に不可欠であると考え、現在に至るまでがん研究に取り組んでいます。</p>			
2：助成研究の内容紹介			
<p>本研究は、多くの固形がんでは活性化されるYAPシグナルを標的とし、分泌型がん抑制因子Reprimoを用いた新規治療法の開発を目的とする。Reprimoは細胞外からがん細胞特異的受容体に作用し、YAPの機能を「増殖促進」から「アポトーシス誘導」へ切り替える分子スイッチとして働く。この作用は正常細胞への影響が少なく、高いがん選択性が期待される。本研究では作用機構の解明とReprimo機能を模倣する治療分子の創出を目指す。</p>			
3：2の将来に繋がる結果予想・目標			
<p>本研究により、YAPシグナルを細胞外から制御するという新しい治療概念が確立される。Reprimoを介したYAP機能のスイッチングは、がん細胞に選択的なアポトーシス誘導を可能にし、高い安全性が期待される。さらに、Reprimo作用を模倣する治療分子の創出により、従来のYAP阻害剤の限界を克服する。本成果は、膵がんや肺がんなどYAP依存性固形がんに対する新たな治療選択肢の創出につながる。</p>			
4：全国のリレー・フォー・ライフ関係者に一言メッセージ			
<p>日頃より、がんに向き合う患者さんやご家族を支える活動、そして研究への温かいご支援に心より感謝申し上げます。研究者として、皆様から寄せられる応援や声が、研究を前に進める大きな励みとなっています。これからも支援の想いを力に変え、がんのない未来の実現に向けて歩み続けたいと思います。</p>			